

すみだ通信 こころの杜



小柳恵見さん

◆
も
く
じ
◆

創立50周年に際して …… 2
ペット紹介 …… 3
外来担当表 …… 4

EVENTS …… 2
公認心理師の豆知識 …… 3
地域連携室だより …… 4

リレーエッセイ …… 3
地元探訪 …… 3
診療データ …… 4

病院理念

地域社会に信頼され、貢献できる病院を目指します

医療法人 住田病院

- 精神科 ●神経科 ●内科 ●リハビリテーション科
- 精神科デイケア ●訪問看護ステーション

「創立50周年に際して」



改築完成図

皆さんもご存じの通り、2024年に日本の紙幣が20年ぶりに刷新されることが決まっています。しかし、一万円札に限っては1984年からずっと福沢諭吉が一万円札の顔でしたので、40年ぶりに渋沢栄一にボタンタッチされることとなります。

昨年NHK大河ドラマ『青天を衝け』の主人公だった渋沢栄一は日本資本主義の父と呼ばれ、500社にも及ぶ企業や経済団体の設立に関わりました。彼は数々の名言を残していますが、有名な『論語と算盤』のなかで、『事を成し、物を接するには、必ず満身の精神を持ってせよ。些細なことであってもいい加減に扱ってはならない』と言っています。これは私の好きな言葉で、「何かを成し遂げたり、何かと繋がったりする時は、全力で行うべきであり、小さなことでも軽んじることなく、どんなことでも丁寧に心を込めて行っていくことが大事」という意味です。

当院は今年で創立50周年を迎えます。設立当初は30床の小さな病院でしたが、認知症患者さんへのサポートシステムが追加され、急性期の精神科患者さんが短期間で治療・社会復帰し、安定した生活を支援するために精神科急性期治療病棟や精神科デイケアが整備されました。

私が当院で勤務を始めてから16年ほど経ちますが、どんな仕事も丁寧に行い、患者さんやご家族だけでなく地域の医療機関や介護保険事業所、行政機関などとの連携も一つ一つ真摯に『満身の精神』を持って向き合うように心掛けてきました。それは精神科病院という組織では、特に人と人との心の繋がりが重要であり、それをないがしろにすると全てがうまく回らなくなってしまうからです。

2018年から精神科急性期治療病棟を発展させるねらいで精神科救急病棟に変更しました。それ以降治療困難な患者さんがさらに増えたことで、全ての患者さんに丁寧な医療や看護を提供する物理的な時間が減少しているように感じます。医療職とはいえ、激しい感情をぶつけてくる患者さんに対する言動が荒くなってしまうこともあるかもしれません。同じ訴えを一日何十回もする認知症患者さんに対応するとき、全く苛立たない人間はほとんどいないと思います。しかし、そういうときこそ原点回帰し、患者さんへの対応を一つ一つ丁寧に心を込めて行う必要があると思います。そうしなければ患者さんやご家族の信頼を得ることはできないでしょう。また、当院を頼りに患者さんをご紹介いただく医療機関や行政機関、警察署との連携も同様です。これからも職員一同、『満身の精神』を持って地域医療に貢献していきたいと思っています。

創立以来時代の変化や地域の要請に伴い新たな取り組みを続けてきた当院ですが、現在の最重要課題は地域包括ケアの充実です。50年の歴史の中で当院なりに実践してきたと自負してはいますが、「患者さんのより安全で安心な暮らしの支援」実現のため当院の各機能を発展させシステム化したいと考えています。訪問看護や訪問診療を充実させ、グループホームや共同住宅等の住居支援にかかわり、就労支援機能を追加し患者さんの収入増加を図ります。入院を必要とする患者さんを24時間体制で受け入れ、早期退院後は患者さんやご家族が安全安心に社会生活を送れるようサポート体制を充実させ、求められる全てのニーズに応えるシステムの構築を目指します。

また、もう一つの取り組みとして、長きにわたり使用してきた病院の建て替え計画があります。現代の精神科医療に適した機能を有する病院に生まれ変わるため2022年4月着工する予定です。

渋沢栄一は『もうこれで満足だというときは、すなわち衰える時である』という言葉が残しています。「現状に満足した時点でその人の成長は見込めない、生涯を通じて成長・改善のために努力し学び続けるべきだ」という意味です。当院も新たな改革に向けて全職員一丸となり様々なことに挑戦し、学び成長していきたいと思っています。

医療法人住田病院 理事長・院長 住田 靖尚

EVENTS

「節分会」令和4年 2/2(火)



鬼退治ゲーム

「クリスマス会」令和3年 12/21(火)



ゲームをして楽しく盛り上がりました

「文化祭」 令和3年 10/26(火)



「作業療法作品」令和3年 9月～11月



「開院49周年記念式」令和3年 11/1(月)



リレーエッセイ『遊び心を』

公認心理士：山崎 唯

コロナ禍で不自由が長く続いて「遊びたい!」と言ったことありませんか?私はよく思っていますし、言います。

「遊びをせんとや生れけむ…」なんて昔の歌がありますが、遊びの体現者である子どもに倣えば、遊びとは自由かつ自発的で、利害のない面白いものという要素があるようです。

最近、自分の子ども心を刺激されたワクワクしたものを紹介しようと思います。

①猫と戯れ

まったり寝る老猫も可愛いですが、特に仔猫は玩具に元気よく飛びつくのが愛らしいです。夢中に遊ぶ仔猫につられて私も子どものように振る舞ってしまいます。

②バドミントン

昔遊びでやっていたのですが、知人が体育館を借りてやっていると聞いて、時々混ぜてもらっていました。子供の頃よりいいラケットを買って、ひたすらシャトルを打つ没頭感はなかなか心地好いです。

③NOKの「魔〇造の夜」

大企業～下町工場の一流技術を持った大人が全力で家電や玩具を魔改造して競う番組です。出てくる大人が真剣かつ楽しむ姿に、何歳になっても遊べるんだと感じ入ります。

私が最初に見た「お掃除ロボット走り幅跳び競争」では、ルンバが宙を跳びます!ジェット噴射の迫力に声を出して笑いました。

コロナの状況下でできることに限りはあるでしょうが、一時子どものように何かに熱中するのなら皆さんは何をしたいですか?

そして、誰かと共有するともっと楽しく、面白くなると思います。コロナ禍を生き延びる術を、親しい人とも分け合えたら素敵なことですね。

ただし、遊びには「区切り」も必須要素です。好きで夢中になると、何か嫌なものを減らす為の没頭とは少々違うようです。後者はコントロールを失わせてしまうことがあるので、自分の遊びがどちらなのか振り返ると発見があるかもしれません。

ペット紹介

作業療法士：小川 里美



親(犬) バカ注意!!

今回は私のかわいいかわいい娘を紹介します。ラブラドル・レトリバーの女の子で永遠(とわ)、5歳です。

まず、永遠さんの性格や日常生活から紹介していきます。永遠さんは人懐っこい方ではありません。どちらかと言うと人見知りをしてしまう少し臆病なわんこです。しかし、飼い主である私には、ぴったりと引っついて膝の上で眠るなどカワイイわんこです。また、週に1回わんこのデイサービスに行っているせいか、わんこの友だちは多く、自分よりも年下のわんこの面倒もよく見る姉御肌の面もあります。

このような永遠さん、実は親公認の彼氏?婚約者?がいるのです。永遠さんと同じくラブラドル・レトリバーのミントくんです。2人はドッグランでワンプロをするなど愛を育んでいるのです(笑)

まだまだ永遠さんの魅力を語りたいのですが、400字では伝えきれません。みなさん、実物の永遠さんに会いに来てくださーい。



公認心理師の豆知識

『性格のうらとおもて』

公認心理師：山下 慎太郎

ご自身や他人の性格に悩むことはないですか。性格には「長所」にも「短所」にもなるところがあります。ご自身や他人の性格を見直してみましょう。

「短所」と思うところ

わがまま・自己中心	⇔	自身の考えを持ち、意見が言える
暗い	⇔	おとなしい もの静か
ネガティブ思考	⇔	楽観的にならずリスクを考える
神経質・緊張しやすい	⇔	誠実である 細かい所に気がつく
ぐずぐずしている	⇔	自身のペースでじっくり取組む
カッとなりやすい	⇔	裏表がなくさっぱりしている 素直
声大きい	⇔	活気がある
言い返せない	⇔	相手や周囲への思いやりが強い
ズボラ	⇔	些事は気にしない

「長所」にもなるところ

地元探訪

『映画で発見!! こんなところに若松区!!』

看護師：瀬戸口 輝

前回に引き続き、今回も若松区を舞台に撮影された映画を紹介いたします。

北九州市に住む元大学教授の主人公は、妻が急逝したことを機に認知症であることが娘たちや地域に知られることとなった。

長女は何度も嫌がる主人公に施設入所を勧めるが、その度大喧嘩になる。気ままにみえる主人公と娘たちは様々な問題に直面し、家族の関係にも亀裂が生じる。

そんな中、娘たちは見学先の介護施設の勤務医に会い、タンゴ歌手である次女は、「認知症のリハビリテーション」としてダンス講師を勧められる。

そのデイサービスに通いはじめた主人公は、次女の指導をうけ、熱心にタンゴのレッスンに打込むことで、情緒も暮らしぶりも穏やかになっていき、娘たちは主人公を静かに受け入れていく。

通いによる「音楽療法・運動療法の実践」により主人公の尊厳と家族の関係を取り戻していくというお話です。

その舞台として若松南海岸や若戸大橋、大正町商店街が登場します。ぜひお勧めしたい映画です。

わたしは認知症専門病棟で勤務し、看護やリハビリテーション、日常生活援助を行なっています。この作品に触れ、患者さん各々の背景や軌跡をよりよく知り、皆さんが毎日明るく笑顔で療養していただけるよう努めています。



「わたし」の人生 わが命のタンゴ (2012年)
主演：橋爪 功 秋吉久美子 原作・監督：和田秀樹 (精神科医)



外来担当表

注) 初診は予約制 祝祭日は休診

	診療時間	月	火	水	木	金	土
初診	9:00～12:00	安達 利昭	香園 敬志	佐藤 雄	白水 浩明	辻 尚志郎	新開 隆弘
	13:00～15:00	安達 利昭	香園 敬志	佐藤 雄	白水 浩明	辻 尚志郎	——
再診	9:00～12:00	辻 尚志郎	住田 靖尚 香園 敬志	白水 浩明	安達 利昭	佐藤 雄	新開 隆弘
	13:00～15:00 土:13:00～14:00	辻 尚志郎	住田 靖尚 香園 敬志	白水 浩明	安達 利昭	佐藤 雄	佐藤 雄



地域連携室だより

地域の医療機関、相談支援機関の皆様には、日頃より当院の診療機能をご活用いただきありがとうございます。今回は、当院で新医師臨床研修2年目の精神科研修を受けた医師から寄稿をいただきました。先生の今後のご活躍を心から祈っています。



4週間住田病院で精神科研修を行い、疾患や薬物治療だけでなく多くのことを学ばせていただきました。

精神科疾患について学生時代に学んではいたものの、研修医となってから統合失調症、気分障害、発達障害などをもつ患者さんと出会う機会はほぼなく、研修初日はどのような距離感でコミュニケーションをとればよいのか分からず戸惑ってしまいました。

しかし、医療スタッフと患者さんの関わり合いを間近で見ると、戸惑いはすぐに消えました。難しいことを考える必要はなく、どのような訴えに対しても必ず体を向け耳を傾ける、どのようにすればその問題が解決できるのか一緒に考える、ひとりひとりに寄り添う姿に感銘を受けたことが、強く印象に残っています。

また、デイケアや訪問看護に同行させていただき、退院後の生活環境や社会生活に対する具体的な着眼点を知ること、多職種連携による地域密着型の医療で患者さんも安心して生活できていることを近くで感じることができました。

私は、来年以降は内科へ進む予定です。研修期間で学んだことや実際に見て感じたことを活かし、今後につなげていきたいと思います。お世話になった先生方、スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

製鉄記念八幡病院 初期研修医 梅津 紗詠子

患者さんのご紹介をいただきました。ありがとうございました。

	医療機関	行政機関	警察・消防	介護施設等
2021年11月	22名	10名	3名	7名
2021年12月	22名	4名	5名	6名
2022年1月	19名	1名	3名	4名
2022年2月	26名	1名	7名	11名

精神科救急病棟退院患者転帰

	自宅	施設	転院	その他
2021年11月	56%	38%	17%	——
2021年12月	75%	25%	——	——
2022年1月	67%	22%	11%	——
2022年2月	88%	12%	——	——

アクセス

電車の場合

鹿児島本線折尾駅よりタクシーで約15分

筑豊本線二島駅よりタクシーで約10分

※折尾駅・二島駅より北九州市営バスで原牟田下車 徒歩約5分

自動車の場合

黒崎インターチェンジから15km。約20分

※駐車場あり



医療法人 住田病院

〒808-0122 福岡県北九州市若松区大字蛸住1435

TEL 093-741-1301 FAX 093-741-6277

<https://sumida-hospital.com>

